

サウジアラビア

Kingdom of Saudi Arabia

		2010年	2011年	2012年
①人口:2,920万人(2012年)	④実質 GDP 成長率(%)	7.4	8.5	6.8
②面積:214万9,690km ²	⑤消費者物価上昇率(%)	3.8	3.7	2.9
③1人当たりGDP:2万5,085米ドル (2012年)	⑥失業率(%)	10.2	12.4	12.1
	⑦貿易収支(100万米ドル)	153,711	244,775	258,423
	⑧経常収支(100万米ドル)	66,751	158,545	172,033
	⑨外貨準備高(100万米ドル, 期末値)	444,722	540,677	656,464
	⑩為替レート(1米ドルにつき, サウジ・リヤル, 期中平均)	3.75	3.75	3.75

〔注〕2012年は暫定値, ⑤は2007年=100, ⑥は15歳以上, ⑦⑧はサウジ・リヤルをドル換算(国際収支ベース)。
〔出所〕①④⑤~⑧:経済企画省中央統計局, ②:CIA, ③⑨⑩:IMF

6.8%の高成長を達成

2012年の実質 GDP 成長率は、高値で推移した石油部門、政府の財政支出拡大を基盤とした非石油・民間部門の成長等を背景に前年より低下したものの、6.8%を確保した。名目 GDP 成長率 8.6%を需要項目別にみると(実質ベースの内訳は非公表)、政府(9.7%)、民間(6.6%)の最終消費支出が伸び、成長に寄与した。政情不安によるリビアの原油減産を補うかたちで石油の輸出が拡大した2011年に比べ寄与度は下がったものの、輸出は8.1%の伸びとなった。原油価格(アラビアン・ライト)は、2012年も中国、インドなど新興国の旺盛な需要のもと、年平均で1バレル106.48ドル(前年比11.9%増)の高値で推移し、生産量も2012年平均で日量980万バレル(5.4%増)となった。名目 GDPを産業別にみると、約5割を占める石油・天然ガスなど鉱業は5.9%伸びた。また、建設業が16.5%、運輸・通信業が12.2%、金融・保険・不動産業が11.1%といずれも2桁増となった。製造業がGDPに占める割合は約1割にすぎないが10.9%の伸びとなった。

財政面では、石油収入の増加に伴い、2012年当初予算で見込んでいた黒字幅(120億リヤル)は3,865億リヤル(歳入1兆2,395億リヤル、歳出8,530億リヤル)にまで拡大した。政府は歳出の増加について、聖地マッカ・マディーナの開発、政府系融資機関への資金供与、失業手当の支払い、従来臨時雇用だった都市サービス業(清掃

業等)に従事する公務員の定職化などに充てたとしている。金融機関による民間部門への貸し付けも活発で、2012年の銀行の民間への貸付残高は前年比14.7%増となった。

国内政治をみると、2012年6月にナイーフ皇太子が逝去し、前職のリヤド州知事時代から国民の信頼が厚かったサルマン王子が新皇太子となった。2013年2月には、長らく空位だった第2副首相にムクリン国王顧問兼特使が任命された。2012年11月に内相にムハンマド氏、2013年1月にはマディーナ州知事と東部州知事にファイサル氏、サウード氏(いずれも40~50代)が就任するなど、一部の要職では第3世代(初代国王の孫世代)の登用も進められたが、指導者層の高齢化と88歳(2013年7月時点)となるアブドゥッラー国王の健康状態も懸念されている。今後世代交代が円滑に進むかが課題となっている。

政府の目下最大の課題は自国民の雇用問題だ。労働省は「ニタカート・プログラム」を導入し、自国民雇用政策を強化している。雇用創出の面では2012年11月に全従業員の半数以上を外国人が占める企業から課徴金を徴収する制度を策定、2013年3月には違法就労をしている外国人労働者の取り締まりを強化した。また2012年10月には民間企業でサウジ人1名を雇用したとみなされる給与水準を月額3,000リヤル以上と定めるなどし、従業員の待遇改善や公務員のみならず民間企業への雇用促進を図っている。また、女性の社会進出の促進に向け、2012年1月からは下着・化粧品売場でサウジ人女性を販売員として雇用することを義務付けた。

表1 サウジアラビア主要経済指標

(単位:%)

	2010年	2011年	2012年
名目 GDP 成長率	22.8	27.1	8.6
民間最終消費支出	8.0	5.4	6.6
政府最終消費支出	12.1	22.4	9.7
国内総固定資本形成	16.8	18.8	6.1
財貨・サービスの輸出	29.6	43.7	8.1
財貨・サービスの輸入	7.5	13.6	5.2

〔出所〕通貨庁(SAMA)

輸入が18.2%増、輸送機器が伸びる

経済企画省中央統計局によれば、2012年の貿易(通関ベース)は、輸出が1兆4,565億200万リヤル(前年比6.5%増)、輸入が5,834億7,300万リヤル(18.2%増)といずれも増加したが、好調な内需を背景に特に輸入の伸び

表2 サウジアラビアの主要品目別輸出入
(単位:100万サウジ・リヤル, %)

	2011年		2012年	
	金額	金額	構成比	伸び率
輸出合計(FOB)	1,367,620	1,456,502	100.0	6.5
鉱物資源	1,192,116	1,266,237	86.9	6.2
化学製品	60,948	66,636	4.6	9.3
プラスチック製品	53,950	57,823	4.0	7.2
食品	12,605	12,853	0.9	2.0
卑金属	8,395	9,223	0.6	9.9
輸入合計(CIF)	493,449	583,473	100.0	18.2
機械・電気機器	131,988	154,062	26.4	16.7
輸送機器	77,141	103,544	17.7	34.2
卑金属	66,225	80,376	13.8	21.4
化学製品	41,952	48,208	8.3	14.9
野菜	28,007	31,324	5.4	11.8

〔注〕2012年は速報値。
〔出所〕経済企画省中央統計局

表3 サウジアラビアの主要国別輸出入
(単位:100万サウジ・リヤル, %)

	2011年		2012年	
	金額	金額	構成比	伸び率
輸出合計(FOB)	1,367,620	1,456,502	100.0	6.5
米国	187,522	208,339	14.3	11.1
日本	180,828	192,201	13.2	6.3
中国	170,500	188,229	12.9	10.4
韓国	137,392	133,585	9.2	△ 2.8
インド	103,272	120,841	8.3	17.0
輸入合計(CIF)	493,449	583,473	100.0	18.2
米国	61,943	78,770	13.5	27.2
中国	64,829	74,195	12.7	14.4
ドイツ	33,964	41,367	7.1	21.8
日本	31,065	38,989	6.7	25.5
韓国	29,076	35,467	6.1	22.0

〔注〕2012年は速報値。
〔出所〕経済企画省中央統計局

が大きかった。貿易収支は8,730億2,900万リヤルの黒字となったが、黒字幅は0.1%縮小した。

輸出を品目別にみると、構成比約9割を占める鉱物資源はリビアの原油生産量の回復や欧州債務危機等の影響で伸びは2011年に比べて鈍化したものの、前年比6.2%増の1兆2,662億3,700万リヤルとなった。その他、国内製造が進む化学製品(構成比4.6%, 9.3%増)、プラスチック製品(4.0%, 7.2%増)などが増加した。国別では米国が前年比11.1%増の2,083億3,900万リヤルで、前年に続き最大の輸出先となった。以下、日本(6.3%増)、中国(10.4%増)、インド(17.0%増)は増加したが、韓国は2.8%の微減となった。

輸入を品目別にみると、輸送機器(構成比17.7%)が1,035億4,400万リヤルとなり、前年比34.2%の大幅増となった。構成比最大(26.4%)の機械・電気機器は16.7%増となり輸入を押し上げた。国別では、2011年に初めて最大の輸入相手国となった中国は前年比14.4%増の741億9,500万リヤルだったが、2位(構成比12.7%)に下がり、米国(27.2%増)が787億7,000万リヤルで再び首位となった。各国統計によると、中国からは電話機等、米国、ドイツ、日本、韓国からは乗用車がサウジ向けの主要輸出品目だった。

品目だった。

■米国、韓国企業が存在感を示す

通貨庁(SAMA)によると、2012年の対内直接投資額(国際収支ベース、ネット、フロー)は456億8,400万リヤル(前年比25.3%減)で2009年から4年連続で減少した。2012年は米国大手企業による積極投資が目立った。新たに合意された案件としては、2011年に話題となったダウ・ケミカルとサウジ・アラムコとの合弁企業サダラ・ケミカル設立に続き、2012年6月にはエクソンモービル・ケミカルがサウジアラビア基礎産業公社(SABIC)との合弁石化事業アル・ジュベール石油化学公社(KEMYA)の施設内に2015年をめどにエラストマーの大規模製造プラントと産業高等研修所を設置することで合意。9月にはゼネラル・エレクトリック(GE)がヘルスケアとエネルギー分野への投資(10億ドル)と技術革新・人材開発への協力を発表した。

サウジ政府は雇用拡大や産業多角化のため、製造業誘致に力を入れており、中国やインドなど新興国の企業が自動車製造や関連プロジェクトの機会を狙う動きがみられた。地場のアル・アムディ・グループは、ヤンブー工業団地にサウジ初のタイヤ製造工場設立を計画しているが、同工場の設計・建設を中国の中工国際工程有限公司(CAMCE)が受注した(2012年5月)。予算規模は9億リヤルで約600人の雇用が創出されるとしている。12月には国家産業クラスター開発計画庁(NICDP)とインドのタタ・グループ傘下のジャガー・ランドローバーが、同じくヤンブーにランドローバーの製造工場設立で合意した。初期投資額は45億リヤルで2017年までに年産5万台の体制を整える予定だ。

中東経済専門誌「MEED」の推計によると、2012年に計上されたプロジェクト予算総額は1,232億5,200万ドルだった(検討中、保留、中断案件も含む)。部門別にみるとサダラ・ケミカルの大規模投資の影響で化学が268億900万ドルでトップとなり、建設260億4,700万ドル、電力196億5,400万ドル、都市開発174億8,100万ドル、石油172億2,000万ドルと続いた。

プロジェクトの受注では韓国と米国が強みを発揮している。2012年9月のジェッダ南の石油火力発電所建設の入札は韓国・現代重工業が最低価格で落札したが、価格順では4位までを全て韓国企業(大林産業、サムスン物産、斗山重工業・現代建設)が占めた。2013年2月にはハンファ建設がサウジアラビア鉱物会社(Ma'aden)の子会社から約10億リヤルでドゥワイヒ金鉱山の開発プラント建設を受注するなど、韓国企業は低コストを武器に石化以外の分野も開拓しつつある。米国企業は、GEによるリヤドPP12発電所向けガスタービン供給(2012年10月公表)

やヒル・インターナショナル(2012年7月), MFRI 傘下のパーマ・パイプ(2013年2月)はそれぞれジェッダ国際空港拡張工事などで、長年の実績とネットワークを強みに受注実績を挙げている。こうした中で中国企業も鉄道建設や石化・発電分野などを中心に進出している。2013年4月には日・韓に続きジャナドリヤ祭に中国がゲスト国パビリオンを出展, 5月には習近平国家主席が北京でファイサル外相と会談するなど、国を挙げて関係強化に努めている。

■ 新興市場へ積極的に対外投資

2012年の対外直接投資は活発化し、投資額は前年比28.3%増の165億600万リヤル(国際収支ベース, ネット, フロー)となった。近年 SABIC は、中国やインドなどアジアの成長市場開拓を目指した積極的な投資を行っている。同社は中国石油化工集団公司(シノペック)との合弁による天津のポリカーボネート製造工場の拡張を計画するとともに、2013年中に国内2カ所に加え、上海とバンガロールに1カ所ずつ研究開発センターを設立する予定である(投資額5億ドル)。将来的には栃木県にプラスチックの製造・販売拠点をもつ日本にも投資し、自動車、家電、ヘルスケアなど先端分野での研究開発を推進する予定だ。2013年1月にアル・ラビアー商工業相がインドを訪問し、石油・ガス分野での投資促進など、経済協力関係を強化することで合意した。また、農地とエネルギー確保の観点から、近隣のスーダンへの投資も活発に行われている。12月にはバイオ燃料生産を行うサウジ・タラがセナール州に6億5,000万ドルの投資を決定。2013年4月にはスーダンのムスタファ・オスマン投資相がサウジを訪問し、総額1億3,000万ドルに上る合弁2社(投資促進会社と食糧会社)の設立や双方の投資を促進し、食料安全保障に向けた取り組みを強化することで合意した。

■ 日本企業の進出件数は増加

日本の通関統計をドル換算すると、2012年の対サウジアラビア貿易は、輸出が前年比27.2%増の82億5,200万ドル、輸入が9.0%増の549億4,060万ドルとなり、貿易収支は466億8,860万ドルの赤字となった。

日本からの輸出を品目別にみると、震災の影響による一時的な供給不足からの回復で最大の輸出品目である乗用車(構成比34.0%)が前年比58.1%増、鉄鋼(14.4%)が43.7%増、バス・トラック(12.0%)も39.4%増と大幅に伸びた。日本の輸入を品目別にみると、9割以上を占める原油および粗油が8.0%増の505億1,160万ドルとなり、輸入全体を押し上げた。

日本の国際収支統計によれば、2012年の対サウジアラビア直接投資額(国際収支ベース, ネット, フロー)は

表4 日本の対サウジアラビア主要品目別輸出入<通関ベース>
(単位:100万ドル, %)

	2011年		2012年	
	金額	金額	構成比	伸び率
輸出合計(FOB)	6,487	8,252	100.0	27.2
乗用車	1,773	2,803	34.0	58.1
鉄鋼	827	1,188	14.4	43.7
バス・トラック	708	987	12.0	39.4
ゴム製品	452	404	4.9	△ 10.6
ポンプ・遠心分離機	373	356	4.3	△ 4.6
輸入合計(CIF)	50,390	54,941	100.0	9.0
原油および粗油	46,784	50,512	91.9	8.0
液化石油ガス	1,684	1,965	3.6	16.7
石油製品	1,177	1,756	3.2	49.2

〔出所〕財務省「貿易統計」をドル換算

3,288億円(前年比5.6%増)だった。2012年1月から2013年5月の間に9社が新たに現地法人を設立(商業登記完了時。2012年3月日阪製作所, 6月日立サイハチ, 7月水ing, 2013年1月アズビル(旧:山武), 西島製作所, 4月エプソン, 日立プラントテクノロジー(現日立製作所), 5月JFE エンジニアリング)し、進出企業総数(代理店への駐在員派遣を含む。2013年5月時点)は79社に増加した(ジェトロ調べ)。その他、2012年10月には東京海上日動火災保険の現地法人アルインマー・トウキョウ・マリンが長年の交渉の結果、営業許可を取得、12月にはいすゞ自動車にダンマン工場の操業を開始した。

プロジェクト関連では2012年5月に住友化学がサウジ・アラムコと共同でフィージビリティスタディを実施してきた世界有数の大規模石化事業ペトロ・ラービグの第2期計画実施を発表した。一般的に韓国等他国企業に押され、日系企業のプレゼンスは希薄だが、一部の案件は受注している。2012年9月には日揮の現地法人JGC ガルフ・インターナショナルがサダラ・ケミカルから芳香族製造設備の設計・調達・建設(EPC)を受注した。日揮は10月にも、日立プラントテクノロジーとともに、ジャザン製油所の大規模製油所の一部のEPC業務を受注した。横河電機の子会社ヨコガワ・サウジアラビアは10月にペトロ・ラービグ第2期計画の制御システム、続いて同子会社のヨコガワ・ミドルイーストが2013年1月にシュアイバII大型複合火力発電所向けの制御システム受注に成功した。三菱レイヨンがSABIC とジュベイルに世界最大級のメタクリル酸メチル製造の合弁会社設立で合意、2014年末の事業開始を目指している。

2013年4月30日~5月1日には、安倍首相がロシア・中東歴訪の一環としてサウジアラビアを6年ぶりに訪問した。首相はサルマン皇太子との会談後、安全保障対話の枠組み新設や省エネ・再生可能エネルギー・原子力、農業、医療サービス分野での二国間協力の促進などに関する共同声明を発表した。5月1日には、「日・サウジアラビア投資協定」の署名が行われた。